

第2回砺波市立学校規模適正化検討委員会 議事録

- 1 開催日時 令和5年9月27日(水)午後3時00分～午後4時10分
- 2 開催場所 砺波市役所 3階 小ホール
- 3 出席委員の氏名(50音順 敬称略)
朝倉 耕三、江成 剛、小幡 和彦、近藤 恵美子、笹田 茂樹、柴垣 慎哉、高島 幸司、
竹山 美紀、永井 耕伸、林 千代、廣瀬 敬一、堀田 隆、前田 幸雄、柳原 清美
- 4 欠席委員の氏名(50音順 敬称略)
飯田 大輔、齋藤 正樹
- 5 事務局の氏名
白江 勉(教育長)、森田 功(事務局長)、河合 実(教育総務課長)、
肥田 啓生(教育総務課主幹)、小谷内 智信(教育総務課主幹)、松永 七星(教育総務課主事)

6 委員会次第

- | |
|---------------------------------------------------------------------|
| 1 開会 |
| 2 委員長あいさつ |
| 3 議事
(1) 学校規模適正化の具体的な方策におけるメリット・デメリットについて
(2) 地区説明会での主な意見について |
| 4 その他 |
| 5 閉会 |

7 委員会の要旨

- | | |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員長 | <委員長あいさつ>
本日は、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。
本日は、第2回ということになります。皆さま方の忌憚のないご意見を頂戴したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。 |
| 委員長 | それでは、規定に従いまして私の方で議事を進めさせていただきます。
まず、議事(1)の「学校規模適正化の具体的な方策におけるメリット・デメリットについて」、事務局から説明願います。 |
| 事務局 | <議事(1)学校規模適正化の具体的な方策におけるメリット・デメリットについて 説明> |
| 委員長 | 事務局から議事(1)学校規模適正化の具体的な方策におけるメリット・デメリットについて説明がありました。
何かご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。
ここに書いてあることがわからないなど、そういったご質問でも結構です。 |
| 委員 | 小中一貫教育の件なのですが、この辺りでは井口の南砺つばき学舎がもう何年ぐらいになりますかね。4、5年くらい経ちますかね。
それで、小中一貫になって効果などがわかるようになるには、どれくらいかかるものですか。良いところもあるでしょうし、悪いところもあるでしょうし。 |

委員長 卒業生が出るまで9年かかりますから、そこで初めて実態がどのようなものであったかということがわかってくるかと思うのですが。その途中経過でも何かわかることなどがあれば、いかがでしょうか。

事務局 井口の方は、直接見に行ったりなどしたことがございませんが、あり方検討委員会の方で国吉の義務教育学校に行って参りました。

その中であったご意見としては、メリットとしては、学校では9年間通して教育されるということで、異年齢の交流がうまくできるとか、小学校の先生が中学校の教科の先生に入ること、小学校と中学校の先生の授業の行き来ができて、中学校の方については専門的な先生をつけることができるお話ですとか。あとは、中学生が小学校の児童と交流することで優しくなったとか、そういうところの説明を学校の方で受けて参りました。

少し心配なのは、学年はずっと少ないまま進んでいきますので、1つ1つの学級や学年の様子については小規模のままで、学習の形態などそういったものは同じような形態なのかと、1つ1つについてはそうなのかというところはあります。

あとは、そこに行った時の委員さんのご意見の中では、小学校と中学校ではすることが少し違うので、やはり小学校と中学校は分かれていた方がいいのではないか、というご意見がありました。

今の井口の義務教育学校の良さかどうかというのは、今のところ実際に拝見したことがないので、今どこまでかというのは少しわからないような状態ではあります。

委員 ちなみに、南砺つばきは令和3年4月なので、今年3年目になります。

笹田委員長のおっしゃるとおり、卒業生が出ないと、プラスもう少し言うと、卒業生が出て2、3年経たないとわからないと思います。ただ、変わった点などを見ることはできると思います。

委員 小学1年生から英語を積極的に教えている、というような話も聞くのですが、それが良いことか悪いことかは分からないんですけど。

委員長 そのようにやってみたいですね。通常であれば3年生からやることを1年生からやっているということですね。

事務局 つばき学舎も、各学年全て単級といえますか、1学級ずつやっております、全校生徒も90人くらいなので、10人ずつくらいなんだと思います。

その他の県内では、国吉と西の社学園がございしますが、それぞれ普通学級は1クラスずつというかたちに今のところはなっています。

委員長 先日、別の自治体の同じような検討会に参加していて、ある県の義務教育学校を視察してきました。

今、事務局からありましたように、異学年の、特に中学生と小学生と一緒に同じ学校通っていて、元々荒れた中学校だったらしいんですけど、一緒になることで非常に学校が落ち着いたと。小さい子の目が常にあるので、下手なことを中学生が出来ないという、そういうメリットはあるというお話でした。

ただ、この会の前の検討委員会で義務教育学校を視察して帰って来てからの皆さん方の感想としては、メリットを感じられた方もいれば、さほどでもないというような意見も結構出ていました。

委員 ○○委員が心配されていることはよくわかるのですが、このメリット・デメリット比較表が書いてあるんですけど、デメリットの小中一貫のところを見ると、児童生徒に関するデメリットがあります。児童生徒に対して、統合の場合はデメリットは出てこない、通学距離、時間とか地域間とかいう言葉は出てきますが。実際、学習という面では、やはり小中一貫より統合の方がいいのかな、という気はします。

あとは、今の学校は大分古くなっているところがあるので、どうするのかというところかなど。古いところから建て直す、新しくどこか場所を考えて作るなど。橋を渡るということが、通学の面では、難しいところがあります。

委員長
委員

今出たお話は、既にある学校を利用するか、新しく建てるかということですね。それは、統合ということになれば、そういう話になってきますね。そこも含めてどうするかということ。

委員長

今、おっしゃられたように、統合という面で言うと、これは前の回で説明があったような気がするんですけど、やはり中学校がある程度クラスがないと、全ての教科を教える先生が配置できない、そういったデメリットが出てきます。小中一貫校にしても、クラス数は変わらないわけですので、その辺りがやはり厳しいところですね。

委員

うちの地区の場合は、先ほど出ていた通学の問題で、橋を渡っていくという話は、庄川さんも一緒なんですけど。その辺りが、大変引っかかっています。庄東地区は、般若の方に確かに団地が出来たところでありまして。それから、東般若の方では工業団地を誘致したいと、皆さん、議員さんも振興会長さんも頑張っていると思います。

あとは、梅檀野地区は、昔、小学校の統合時にかなりもめた地区です。おいそれと、そんな簡単に庄西中に行くことは、本当に大変な問題なんです。

昨日、庄東の協議会がありまして、皆さんのいろいろなご意見が出ていたわけですが。中々少し、川越えて行こうというような話にはならないといえますか。各地区ごとだけの問題に対しても、とてもしっかりと皆さん気持ちを持っておられるというのがあったので、簡単には庄西行こうかという話にはならなくて、難しいところがあるのではないかと思います。

実は、この会合の後の状況を聞いて、庄東協議会の方に持ち帰って、次の機会に話をしなければと思いますが、やはり中々その辺りが厳しいかなど。ある程度、一貫校みたいなことを考えていかないといけないかなど。

ただ、言われた通り一つあるのは、部活の問題とかその辺りだけ考えると、実は統合というのも、子供たちの選べる範囲が広がりますよね。

それから、言われた通り先生の問題を考えれば、確かにきちんと専門の先生がおられるというのは大変良いこともあるのですが。小中一貫校になった中で、小学校の先生の中で、中学校の専門的なことを教える先生がおられれば、そういったところも教育委員会等で配慮していただければ、ある程度カバーできるかなと思います。今後の話でまた聞きながら考えていきたいなと思います。

委員

統合であるとか小中一貫であるとかは、子供たちにメリットがあるのであれば、私はどちらでもいいと思うんですね。

例えば、規模適正であるとか、範囲であるとかの部分で話をしているのは、大人が勝手に話をしてるだけですよ。

特にデメリットの部分で、子供に対してどうケアしていくかということ。例えば、どんな形になったとしても、いろいろなデメリットは必ず出てくると思うんですね。そのデメリットに対して、どういったケアをしていくかという部分は、これからだと思えますけど、特に今の段階では触れられてない。

一番は、子供たちのためにいかに良い、例えば、教育の場を与えられるかというか、環境を整えられるかというのが一番だと思うんですね。

それが、統合であろうが小中一貫校であろうが、どちらでもいい話で、子供たちの

ために一番といいますか。やはり、その統合年度であるとか、先ほど井口の例が出ましたけれど、3年経ってみて結果出るのはもう少し先なのであれば、特に統合年度から3年間の子供たちの繊細な心といいますか、その辺りのケアというのをしっかりとやっていかないとだめなのではないかなど。

そういった部分も、統合であるとか小中一貫であるとか、いろいろな各方法のパターンと一緒に考えていかなければと思うのですけれども。また、検討していただければといいなと思います。

委員長

今おっしゃったように、子供たちにとって何が一番良いのか、ベストな選択かというのとは一番重要なことですね。

委員

私は、職業柄、いろいろな世代の方とお話させていただく機会が多くてですね。

今日、ちょうど他市の方とお話させていただく機会がありまして、ある義務教育学校の話をしていて、ずっと同じ小さな規模で9年間一緒に過ごすことや、特定の教科にすごく力をいれている学校で、その教科が嫌いだと、学校へ行くのが嫌だと。そうしたら、学校に行きたくなくなってしまうと、不登校が増えると。小さな規模でずっとやっている、何かこじれるとそれが長引いてしまって、子供も上手いかわなくて、親同士も上手いかわなくて、こじれたまま数年過ごすという結構厳しい状況で。聞いた話ですと、不登校が問題だな、とおっしゃっていた。

私は、このメリット・デメリット見て比べると、子供のことを考えると、統合の方が子供のことを思っていると感じました。

小中一貫校だったら、一貫校だったら子供に対してのデメリットが多く感じられるので、子供のことを考えるならば、子供が一番なので、不登校も難しい問題なんですけど、いろいろな人間関係構築も大事だと思いますし、統合が理想だなと、私は思います。

また、いろいろ検討しなければいけないと思いますけど、実際に今日、感じた話を少し皆さんにお伝えしました。

委員長

今おっしゃったようなデメリットに関しては、小中一貫の4番目に人間関係の固定化がしやすいとあります。

ただ、統合のデメリットを見ると、1番目に書いてありますけど、子供一人一人の把握が小規模校よりも難しくなると。小規模の学校の方が子供を見る目が行き届く、そういう子供を含むメリットもあるということですね。

委員

話を聞いていても、伝わってこない部分もあるので、百聞は一見に如かずという部分があるのかなと思ってます。言っている、実際にこの目で見た方が早いのかなど。どんなパターンを見るのかはわかりませんが、今の現状やその後どうなっていけばいいのかなど、この目で見て、もう少し考えてもいいのかなと思います。

もう一つ、違う視点で意見を言いますが、子供がこのままどんどん減っていくというのは、現状、人口が減っていくので仕方がない部分があると思うんですけど、逆に暗い話ばかりしていてもどうなのかなと思いますし、であれば行政として、砺波市として逆に人口を増やすのはなかなか難しいのかもしれないんですけど、どうしたら良いものを、砺波市として頑張っていけるのかなということ、真剣に考えていくべきだなと思いますし。今は学校のことをどうするかという話ですけど、もう少し大きく考えると、人口を増やす、子供を増やすためには婚活も必要だろうし、今、国際電気ができます、作りますと言いますが、そこには雇用が発生して、そこでたくさんの方が働くということ、空き家を含めて、どういう風にして住居環境というか、住んでいただくのにどうやっていくのかなど、いろいろなことを複合して考えて、砺波全体のことを考えていった方がいいのかなというのはすごく思うこ

とです。ただ減っていきます、それならば増やす方法として砺波もっと頑張ろうよ、というような、他の市からでも移住してもらって、一生懸命やるんだという気持ちでやっていかないと、働く人もだんだん減っていきますしということで、いろいろなことを考えながら、いろいろな要素を含めながら、その先をいろいろな所とタイアップして、経済なら商工観光課だ、空き家なら違う分野の課だ、というのではなくで、全部総合して、横も縦断しながら、このことも考えていった方がいいのかなという風に思っています。

ただ、部活に関してはどんどん無くなっていくというのは、土日などの休みは民間に移行していくことをしているので、これもどんどん大変なことになっていくと思いますので、そのようなことも全て考えて、子供のためにどうなのかということも考えていただきたいと思います。

委員長 最初おっしゃった話では、現状をどこか見に行った方がいいのではないかとということです。中盤からは、やはりもっと広い視野で、砺波市全体をどうやって活性化させていくかというお話でした。

このことに関して事務局から何かございましたらお願いします。

事務局 砺波でもとなみ暮らし応援プロジェクトや移住定住についても力を入れておりますし、あとは産み育てしやすい環境に対する支援、先ほど言われました婚活や子育て支援をやっている部署もいろいろありますので、横の繋がりもしっかりしながら進めて参りたいと思います。

委員長 あとは、各地域の魅力化と言いますか、自分たちの住んでいる地域をどういう風に盛り上げるか、というような話もあったかと思えます。

委員 こちらは、メリット・デメリットに関して、一般的な傾向ということで示されているということなんですが、他市の例としていろいろな中学校とか小学校とかの取り組みをされているところの記載がありますけども、こちらはヒアリングなどされた上でそれらも含めて記載されているものなのか、世の一般的な傾向としてということで書いてあるので、そうではないかという風に思ったのですが。

意見と言いますか、例えば導入されているところに実施されたうえで、どのようなデメリットがあるのか、そういったデメリットに対してどういった解決方法を取ったのか、ということが分かると、より移行に対するイメージというものがつきやすいのかなと思いますし、そうすると課題が見えてきて、それに対する予算組みであったりとかアプローチの仕方というの、また見えてくるのかなという風に思いましたので、意見と言いますか、質問が混ざっていますけれども、少し教えていただければなと思います。

事務局 ここに書かれているものはヒアリングしたものではございません。一般的なものを書かせていただいております。

確かに、デメリットに対する対応もそれぞれの学校でしておられる部分もあると思いますから、少し確認みたいなことも考えてみたいと思います。

委員長 ある程度方向性が定まっていれば、どのようにデメリットに対処するか、ということをも具体的に考えられるということですね。

事務局 また、先行事例なども調査してみたいと思います。

委員長 他にもまだいろいろご意見を持っている方がいらっしやると思いますけど、議事(2)の「地区説明会での主な意見について」事務局から説明願います。

事務局 <議事(2) 提言書(素案)について 説明>

委員長 ただいま事務局の方から説明がありました。

- こちらについてご質問、ご意見がありましたらお願い致します。
- 委員 庄川町の方でまちづくり協議会というものをやっております。
これは庄川町だけの話なんですけど、その中で「学校へ行こう」という運動を立ち上げて5年くらい経つんですが、その時から学校へ行こうよ、というようなことを運動としてやっております。ただ、コロナで4年間ずっとそのようなことが出来なかったのですが、去年、今年くらいからまた声が上がって、みんなで学校に行こうよと。学校の都合もあると思いますが、例えば、文化祭や運動会を子供がいないおじいちゃんおばあちゃんだけで住んでおられる方達にもアピールして、みんなで学校へ行こうよ、ということでそういう運動を少しずつ行っております。
先日も、庄川中学校全校生徒122人しかいないんですけども、一生懸命運動会やっております。おそらく、近所の子供さんがいないおじいちゃんおばあちゃんも見に来ておられたんじゃないかと思っております。そういったことで、少しずつ学校に対する意識を高めていきたいと思っております。
現場に行く人や地区の役をしている人は立場上、学校を無くしてはならないというような意見は出ているんですけど、やはり将来の子供の為にみんなで十分に考えていきたいと思っております。
- 委員長 庄川の取組を紹介していただきましたけれども、各地区でもそういった努力をされているところもあるのかなど。学校と関係がないわけではなくて、皆さん方が学校をもり立てようという発想が大事だと思いますね。
- 委員 ここで見ていると、中学校の説明会ですけど、通うのに6kmとか4kmとか書いてありますが、小学校の例を見ますと4kmは長いのではないかとこのところで、国で4kmってなぜ決まったのですか。
小学校1年生が4kmというのは、中々だなと思います。ある地区、子供が全然なくて、その子が小学校2年生になるのに1人なんです、6年生がいなくて小学生が。1人で4km、親が考えた案は引っ越しなんです、学校の近くに引っ越す。今同居しているんですけど、別居になる、そうしたら祖父母が困ったと。どうして4kmになったのかと疑問に思いました。
ここが動かせないことなのかと、国が決めているからといたら動かせないんでしょうか。
- 委員長 というご質問なのですが、前の会の時に、通学距離の基準等、ある程度目安は出していましたよね。
- 事務局 国の基準と同じ4kmとなっております。
- 委員 絶対それは従わないと行けないんですか。
- 事務局 絶対従わなければいけないということはないのですが、砺波市でも遠距離の場合はスクールバスを出したりというような対応はしております。
- 委員長 全国的に見ると、今おっしゃったよりももっと遠距離で通わなければいけないというお子さんがいる地域、北海道などはほとんどで、特に地方にいきますと実際10何kmとかいうお子さんも出ていると思うんですけど、全体で見ると一応4kmならば、低学年の子はかなりきついですけども、歩いていける距離とされています。
- 委員 林の方の地域でタクシー使っている子がいるとかいう話なかったですか。
- 委員 そういう話を聞いたことがあります。自治会で、バスが走らないから。
- 事務局 確か、若林はそういう時代が昔あったかと思うのですが、今は市営バスが時刻合うようになり、冬場乗っている方が多いのではないかなと思います。
- 委員長 学校の統合という形で話が進む場合は、特に遠い子供たちはスクールバスなどの手立てをすることになってくると思います。

委員

私は、前に中学校のPTA会長をしていました。

今、ちょうど通学の距離の問題でということだったんですけど、私は、小学校の時はスクールバスを運用していただいて通学していたんですけど、中学校になると遠い子は自転車通学になっているんですけど、前に、私がPTA会長している時に、冬場の通学、中学生も結構今の冬場となると、ご家庭でみんな送り迎えをやはりしていきまして、遠い距離の4km以上ある子の家は、その時間に送れないとか、おじいちゃんおばあちゃんがいないから送れない、どうやってうちの子は通えばいいのか、という意見も上がってきたり。そのところは、今言われたように自治会にも相談されまして、自治会で送り迎えしてくれないのかとかそういう意見も出たり。やはり雪国ということもありまして冬場、小学校の時は私の子供たちもスクールバスがあったので、近くのバス停まで送れば安全に学校まで送り届けていただいていたんですけど、今の子は中学生といえども、歩いて行けばいいのかもしれないですが、やはり危ないとか、このご時世、送り迎えをされることを前提で親御さんも私たち学校に問い掛けたり、そういう問題を投げかけたりされたことがありますので、統合ないし、この話をしていく上で、通学距離や校区は大きな問題になってくるのかなと思うので、それをまたいろいろ話し合っていければいいなと思っています。

委員長

本当に冬場だと自転車は危ないですよ。ただ、ご家庭の自家用車に頼るばかりでもやはりいけないですし、それは今後の検討課題になると思います。

委員

正確な数字は忘れちゃったけど30、40年前の車の台数と今の台数と比べると、恐らく2.5倍から3倍になっているはずなんですよ。

委員長

交通の安全を確保するのも大事なことです。

委員

今の通学の話に少し付け加える形になるんですが、私も庄東地区に住んでいるのですが、坂道も多くて、やはり中学生になると通学が問題になってくると。おじいちゃんおばあちゃんと同じく同居している家庭はいいんですけど、そうではない家はやはり送り迎えしなければ、雪が多いときは学校に行けないという意見が多くあります。その対策として、小学校のスクールバスに乗せてくれないかという意見も前に砺波市の方に、これとは別の会の時に意見が出ていたりしていたんですけど、ただ通学の問題さえ解決すれば、割とこのメリット・デメリットとか、小規模がどうだとか人数が少なくてコミュニケーションがどうかとか、そういうところは人それぞれ捉え方が違うので、小さい方がいいという方もいれば大きい方がいいという方もたくさんいると思います。

地方で砺波の自然豊かなところで暮らしたい、という方がいたとしても、やはり通学できないからとか、高校とか駅が遠いからいけないとかという問題で断念する方もいらっしゃると思うので、そういった通学や交通の面を考えていけば、人口もこういうところで暮らしたいという人もコロナ禍で増えたりしたので、増えていくと思うので、そこも一緒に考えていけたらいいなと思います。

委員

中学校の通学の話が上がりましたが、どれくらいの方が送り迎えしておられるんですかね。

委員

例えば、時代が全然違いますけども、自分が中学校に通っていた時は、まだバスが走っていました。冬場は、学校が用意したものではないバスで通学していましたし、それこそ雪が降っても関係なく自転車で通学している人もいましたけども、今はバスもないですし、通学するのにチョイソコ乗るかと言われれば、あれですし、ほぼほぼたぶん送っておられるのではないかなと思います。

委員

雪が降ったら自転車に乗るな、と言われますので、そしたら送るしかないですよ。

委員

行きよりも問題なのは帰りですよ。部活動があって、大体終わりが午後5時15

分。その時、冬場はもう真っ暗なんですよね。それから、自転車にしても歩きにしても危ないですよね。

通学的手段に公共のバスがないというのが厳しいところですよ。

委員

振興会の中の方から、要するにおじいちゃん達の方では話題になっているんですけども、要するに合併するというのが大変な問題なんですけど、若いお母さんやお父さんたちは、本当にどう思っているのか。

個人的には、実は私の地区の子供は本当に少なく、各学年1人か2人しかいないんです。その人たちは、遠いから最初から送り迎えしているんです。

そうしたら、単純に私の地区では例えば、統合してもほとんど変わらないんです。最初から送り迎えをしているので。

仮に、庄西行っても何の問題ないんです。行こうと思えば。うちの地区では。

他の3地区は、それはなかなかの問題があるのですが、そう考えると先ほど庄東ではなかなか、みたいなことを言いましたが、本当にPTAの方々や子供たちがどう思っているのか、個人的にいいのかな、統合もありかなという思いがあるのだけでも。それを正直に、皆さんそうしましょうとは、とてもじゃないけれど言えないんだけど。ほとんどのおじいちゃんおばあちゃんのお家は子供がいないんですよ。そういうところを考えると大変コメントが難しいところですね。

本当に、やはりPTAの方々の意見というのを、その辺りを聞いて、方向性を出していただきたいですね。

委員長

各地区での話の中でも、若い人の意見を聞いてほしいという意見が複数出ていたみたいですね。

委員

恐らく、意見聞くと嫌だという意見が大半だと思うんですけど、やっぱり自分たちの育ったところの、巣立った学校が残って欲しいと思うのは必然だと思うんです。ただ、それは大人の意見であって、やはり子供たちのためにと考えると、その考えは置いておいて、ということで考えていかないといけないかなと思います。

恐らく意見を聞くと、統合するのが嫌だという意見が大半だと思うんですけど、そこをどうメリット・デメリットを解決しながら、考えていかななくてはならないのか、というところかなと思います。

委員長

今、おっしゃった感じでは、親世代の方もやはり統合に関しては、一定数反対がある感じですかね。

委員

恐らく、統合よりは小中一貫の方がまだ、庄東地区は現状が小中一貫みたいなものですよ。9年間クラス変わらず、1クラスしかないので一緒かなど。現状あまり変わらないかなど。

どちらがスムーズかということ、小中一貫の方がスムーズかなと思います。だから、パッと見た時に、統合というのはやはり壁があるというのが正直な感想かなど。

委員

個人的な意見なんですけど、私が小学校の時、少なかったんですけども、1クラス12人しかいなかったんですけども、それが中学校に行きましたら133人になったんです。

そこで、やはりいろいろな子と一緒にいるということは、世界が開けるんだなど、私は当時そう思いました。

だから、やはり沢山の人数で学校生活を送るとするのは、個人的な意見ですが、いいことだなという風に思っています。

委員長

小中一貫になると9年間一緒になるけど、複数の小学校が集まってくれば、やはり友達関係が広がる、視野が広がるということですね。

委員長

それでは、議事(2)の質問やご意見は以上とさせていただきます。

今、行いました質疑応答や意見交換の内容については、事務局の方でまとめただければと思います。

先ほどご意見も出ていました、学校を見に行くという風なことに関して、事務局の方で何か案などありましたら、後で教えていただければと思います。

具体的に、どこを見に行くとかいう話は出ていないですかね。

事務局

この会合の前の、あり方検討委員会の時には、委員の方に実際の学校現場を見ていただいてご意見をいただきましたので、今、委員の方も変わっておられる方が多いですから、やはり学校の現場の実態みたいなものを見ていただくこともよろしいかなと思いますので、ある程度人数がいる学校と小規模校というような形を少し検討して、学校現場の視察を調整したいと思っています。

委員長

今おっしゃっていただいた通り、大きな学校と子供が少ない学校と、両方見に行くような形ですね。

それでは、本日これで予定していた議事については、終了とさせていただきます。

皆さんどうもいろいろとご意見いただきまして、ありがとうございました。

マイクを事務局にお返しします。

教育長

<閉会あいさつ>

本日は、誠にありがとうございました。メリット・デメリットを示させていただいたこともあり、何か一步踏み込んだ意見を沢山いただいて、大変参考になった次第であります。

〇〇委員がおっしゃっていた、この後地区に持ち帰ってという、これが本当にありがたく、それこそ皆さん自身がいろいろな方にこういった話題を振っていただいて意見を聞いていただくことは、大変ありがたいなというふうに思っている次第でございます。

〇〇委員の方から、庄川地区で学校に行こうという、とてもありがたいことで、昨日も庄川小学校に学校訪問に振興会の方がたくさん来てらっしゃいました。そういうふうにやっぱり子供たちの生の姿を実際見ていただくというのが一番であります。

従いまして、今回中学校でありますので、中学生がどのような状態で過ごしているのかというところを、ご自身のときとはまた人数が違っておりますので、それをそれぞれ肌感覚で見ていただくというのがありがたいのかなというふうに思っている次第であります。

先ほど、委員の方から小学校の時に十数名だったというお話をおっしゃっていて、私実は高波小学校でありまして9名でした、小学校1年生から4年生まで。前後は二十数名いたんですけど、私9名で男子が6人、女子は3人しかいなかった状況であります。ですから、私自身の感想から言うと小学校4年生までは非常に寂しい思いをしておりました。

その後、砺波北部小学校に統合されまして、5年生で入ったときに2クラスで80名いました。当然、友達も増えました。その後、出町中学校に行ったときに7クラス、280人かな、という過ごし方をして、どんどんどんどん増えていったという育ちをしたわけであります。それがよかったのかどうかはわかりませんが。

先ほど、委員の皆様には、子供にとっての教育環境、子供のために、或いは、いろいろな具体的な人間関係のこじれとか意見をいただき、つまり中学生にとっての教育環境は何が一番いいのかということを考えていく必要があるかというふうに思う次第であります。

また、通学についての意見もありました。確かに保護者の立場から言えば、しっかりそこにスクールバスが中学生であっても通っていることが大切です。中学生にとっていうことで、皆さんご存知のように中学生というのはまた小学生と違って思春期であり、反抗期であり、親に対してなかなか上手くコミュニケーションが取れない生徒が増えるなかで、何が一番大切かといいますと友達なんですよね。生徒同士の間人間関係、ここをしっかり作っていききたいと、そうしていくということが、皆さん自身も中学生の時そうだったのではなかろうかということで、それこそ人間関係のこじれもありましたし、中学校も私当然よく行ってますが、同じ学年に40人いるのと30人だったのと20人なのと10人なのと、全然違います。

例えば、般若中学校は40から30、20人の学年があったりして実際、学校訪問で見た時にやっぱり肌で違うものを感じてはいます。でも、これは私自身が見て肌で感じているので、ぜひ皆さん自身がこれを見た時にどう違うのかというところを、ここに校長二人いらっしゃいますが、今日発言の機会無くて寂しい思いをしていたかもしれません、微妙なところなんです。やっぱり、その生徒にとっては一生の世界なので、それが本当にその人数で育った方が、もちろんおっしゃった通りその子にとっていろいろ違うので全て正解ではないのですが、どっちがいいのかというところ、多数にとってというところをまた考えていただくためにも今日はいろいろな視点からご意見を頂戴して大変ありがたかったです。ということで次回はまた学校視察も含めて、改めてのお願いですが皆さん自身いろいろな方に話を聞いていただいて、またこの場で生の意見をどんどん出していただけるとありがたいなと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、誠にありがとうございました。